

実践例：中学校社会



単位時間の学習例：地理的分野「日本の諸地域 ～近畿地方～」

1. 資料等を基に、本時のめあてをつかむ。

めあて：阪神工業地帯では、工業の発展と共に生じた環境問題に対して、どのように取り組んできたのだろうか。

ICT活用の場面及び機能とよさをチェック!

□ 提示・配布機能

資料から他の工業地域と比較すると機械、鉄鋼繊維、食品等の工業製品を偏りなく生産していることや、過去に公害が深刻化していたことを捉えさせる。

短時間で！
効率的に！

資料を拡大し、詳細な部分から様々なことに気付かせる。

2. 個別に、阪神工業地帯の工業の発展にともなう環境問題に対する取組について、必要な情報を集め、整理する。

□ 検索・収集機能

□ 思考の補助機能

インターネットなどで検索し、解決に必要な情報（資料）を幅広く収集させる。

簡単に！
様々な！

工業の発展に伴う環境問題に対する取組を情報（資料）とセットで整理する。



何度でも！
簡単に！

3. 集団で、近畿地方の工業と環境保全はどのように両立しているか考察をする。

□ 共同編集機能

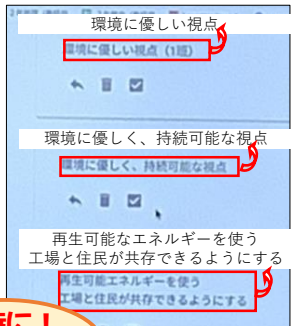
□ 一覧表示機能

情報（資料）
を根拠に

複数で！
同時に！

整理した情報を並べ、色を付けたリ、線を引いたりなどし、過去と現在の環境問題に対する取組についての相違点を考えさせる。

集団の
考え



瞬時に！
全員の！

4. 本時のまとめをし、それを学級全体で共有するとともに、一人一人が学習の振り返りをする。

□ データの保存・提出機能

いつでも！
手軽に！

分かったこと、さらに調べたいことを視点に振り返りを入力・提出させる。

【生徒の振り返りより】

近畿地方は、工場の移転から太陽光パネルの設置などへと、持続可能な開発の視点を取り入れた環境対策に取り組み、工場と住民の共生を目指して発展してきたことがわかった。中小工場も重要な役割を果たしているが「絶対に緩まないねじ」以外に、阪神工業地帯の工場にしかない独自の技術はあるか調べてみたい。